

THE COLLECTION GALLERY

これくしょん・ぎやらりい

2010年10月29日(金) ▶ 2011年1月23日(日)

モンパルナスの灯 エコール・ド・パリの群像

The Light of Montparnasse: Artists of the École de Paris

エコール・ド・パリの画家たちとも親しかった作家フランシス・カルコは、「モディリアーニの死とともにひとつの世代が死んだ」と回想しています。ユダヤ系イタリア人画家モディリアーニほど、両大戦間のパリで花開いたエコール・ド・パリの芸術とその人間ドラマを象徴する存在はいないでしょう。そして彼をはじめとして多くの異邦人芸術家たちが、この時代を生きたのがモンパルナスという街だったのです。

同時代のジャーナリストで美術批評家でもあったミシェル・ジョルジュ＝ミシェルは、モディリアーニの悲劇的な生涯を小説『モンパルナスの灯』（原題：モンパルナスの人々）に結実させました。この小説は後

に映画化もされ、モディリアーニという画家の伝説の形成に大きく寄与します。しかし、そこで語られた芸術家伝説は、同時にモンパルナスという街の伝説そのものでもありました。

この小説のタイトルを借りた本展は、モンパルナスが特別な輝きを放った時代、この稀有な街だけが持ち得たエコール・ド・パリの時代の空気を伝えたいと願って企画されたものです。このたび北海道美術館協力会より寄贈されたモディリアーニの貴重なデッサン《フジタの肖像》を導き手に、様々な芸術家群像に彩られたモンパルナスの迷宮へと旅立ちましょう。

第I章：^{モンマルトル} 殉教の丘から ^{モンパルナス} 美神の丘へ

哲学者ニーチェをして「人はパリを除いては、ヨーロッパに住む家がない」とまで言わしめた大都市パリ。芸術の都としても名高いこの都市には、その中心を流れるセーヌ川を挟んで、芸術と深く結びついた二つの丘があります。右岸側のモンマルトルと左岸側のモンパルナスです。

モンマルトル Montmartre は、フランスの守護聖人サン＝ドニが殉教したと伝えられる地で、フランス語の「殉教者の丘 Mont des Martyrs」にその名が由来します。19世紀半ばまではブドウ畑や風車のあるのどかな郊外でしたが、世紀後半から20世紀初頭にかけて多くの芸術家に移り住み、芸術家街として賑わいました。しかし次第に歓楽街として観光地化が進んで家賃も高騰し、

1910年代以降、その座をモンパルナスに奪われます。

新たな芸術家街として台頭したモンパルナス Montparnasse は、ギリシア神話の「パルナッソス山 Mont Parnassus」（文芸の女神たちが住む山）にその名が由来します。とりわけ第一次大戦後から20年代にかけて多くの知識人や芸術家に移り住み、画家や彫刻家といった美術の領域だけでなく、文学者、批評家、思想家などジャンルを超えた多彩な交遊関係が結ばれました。そこには外国人も多く、世界各国から集まったすぐれた才能が、あたかも核反応のように分裂と融合を繰り返し、巨大な創造のエネルギーが生まれたのです。その名の通り、まさに美神たちが宿る山の名にふさわしい街でした。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
1	モーリス・ユトリロ	モンルージュの通り(セーヌ)	1910年頃	油彩・キャンバス
2	モーリス・ユトリロ	シセイ・アン・モルヴァン	1914年頃	油彩・ボード
3	マリー・ローランサン	三人の娘	1943年	油彩・キャンバス
4	アンドレ・ディニモン	『パリ1937』：フランシス・カルコ「モンマルトル街」挿画	1937年	エッチング、ドライポイント(サイン)・紙

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
5	エドゥワール・ ヴェイヤール	『パリ1937』：フランシス・カ ルコ「モンマルトル街」挿画	1937年	エッチング(下地)、ドライポイント・ 紙
6	ジュル・パスキン	バル・タバラン	1925年	鉛筆、淡彩・紙
7	ジュル・パスキン	モンマルトルのバー	1912年	ドライポイント・紙
8	ジュル・パスキン	カフェにて	1913年	ドライポイント、色鉛筆・紙
9	ジュル・パスキン	モンマルトルの女たち	1912年	木口木版、墨・紙
10	ジュル・パスキン	ホワイアティエ街11番地	1920年	ソフトグランドエッチング・紙
11	ジュル・パスキン	アンドレ・サルモンとモンマルトル	1921年	油彩・紙
12	ルイ・トゥシャグ	『パリ1937』：レオン＝ポール・ ファルグ「モンパルナス」挿画	1937年	エッチング・紙
13	モイズ・キスリング	『パリ1937』：レオン＝ポール・ ファルグ「モンパルナス」挿画	1937年	エッチング・紙
14	ジュル・パスキン	広場にて	1929年	ソフトグランドエッチング・紙
15	ジュル・パスキン	テラスにて		ソフトグランドエッチング・紙
16	ジュル・パスキン	肘掛け椅子のモデル	1925年	油彩・キャンバス
17	ジュル・パスキン	二人のモデル	1924年	油彩・キャンバス
18	ジュル・パスキン	ジナとルネ	1928年	油彩・キャンバス
19	ジュル・パスキン	アッサン	1922年	鉛筆・紙
20	ジュル・パスキン	立てるモデル	1922年	コンテ、鉛筆・紙
21	ジュル・パスキン	後姿の裸婦Ⅱ	1922年	コンテ、鉛筆・紙
22	ジュル・パスキン	アトリエのモデル	1923年	コンテ、鉛筆・紙
23	モイズ・キスリング	半裸婦	1926年	油彩・キャンバス

第Ⅱ章：^{モンパルノ}芸術家たちの交友録

「ル・ドーム」や「ラ・ロトンド」などのカフェ、^{ラ・リュッシュ}「蜂の巣」のようなアパートや共同アトリエ、また貧しい芸術家たちに格安で食事を提供する簡易食堂^{カンティース}などがあったモンパルナスでは、芸術家たちは盛んに議論し、時には制作を共にして刺激を与え合いました。そして、それは美術の分野にとどまらず、文学者や批評家、思想家、音楽家など多彩な領域の才能同士が結び合い、新たな芸術の烽火となったのです。

天才的詩人で美術批評家としても優れた著作を残したアポリネール。彼に象徴されるように、新しい才能を擁

護した批評家の多くが作家や詩人など文学者であったため、とりわけ文学と美術が結び付いた挿絵本には豊かな所産が見られます。またコクトーの台本、ピカソの舞台美術、サティの音楽によるバレエ《パレード》を生んだディアギレフのロシア・バレエ団のように、各ジャンルが一体となった総合芸術も誕生しました。こうした豊かな芸術的成果の背景には、モンパルナスという街の存在がありました。それは、モンパルノと呼ばれた人々の交遊録ともなっているのです。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
24	ルネ・デュレイ	『パリ1937』：ポール・モラン 「シャン・ド・マルス公園」挿画	1937年	エッチング・紙
25	アンドレ・ロート	『パリ1937』：ポール・モラン 「シャン・ド・マルス公園」挿画	1937年	エッチング・紙
26	ジュル・パスキン	夜とぞす	1923年	エッチング、手彩色・紙
27	ジュル・パスキン	夜とぞす	1923年	エッチング、手彩色・紙
28	ジュル・パスキン	夜とぞす	1923年	エッチング、手彩色・紙
29	ジュル・パスキン	夜とぞす	1923年	エッチング、手彩色・紙
30	ジュル・パスキン	夜とぞす	1923年	エッチング、手彩色・紙
31	ジュル・パスキン	トリスタン・ドレームの肖像	1925年頃	ドライポイント・紙
32	ロラン・ウド	『パリ1937』：トリスタン・ド レーム「パシー街の夢」挿画	1937年	エッチング・紙
33	エドモン・セリア	『パリ1937』：トリスタン・ド レーム「パシー街の夢」挿画	1937年	エッチング・紙
34	ジュル・パスキン	マッコルランの肖像	1923年	木炭・紙
35	ジュル・パスキン	マッコルラン	1924年	水彩・紙
36	デメトリウス・エマニュ エル・ガラニス	『パリ1937』：ピエール・マッ コルラン「モンマルトル」挿画	1937年	エッチング、ドライポイント(サイ ン)・紙

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
37	シャルル・カモワン	『パリ1937』：ピエール・マッコルラン「モンマルトル」挿画	1937年	エッチング、紙
38	ジュル・パスキン	ピエール・マッコルラン著『パスキンの墓』（挿画8点収録）	1944年刊	
39	アメデオ・モディリアーニ	フジタの肖像	1919年	鉛筆・紙
40	マリー・ローランサン	婦人像	1920年	油彩・キャンバス
41	岡田謙三	野外習作	1935年	油彩・キャンバス
42	マリー・ローランサン	犬と三人の乙女	1930～40年	水彩・紙
43	藤田嗣治	二人の女	1918年	油彩・キャンバス
44	ハイム・スーチン	祈る男	1921年頃	油彩・キャンバス
45	モイズ・キスリング	サン・ジェルマン風景	1914年	油彩・キャンバス
46	モイズ・キスリング	籠、パイナップル、リンゴ、メロン	1922年	油彩・キャンバス
47	モイズ・キスリング	魚の静物	1924年	油彩・キャンバス
48	モイズ・キスリング	オランダの娘	1928年	油彩・キャンバス
49	ジュル・パスキン	国吉夫人	1927年	鉛筆・紙
50	国吉康雄	横たわる裸婦	1929年	油彩・キャンバス
51	キース・ヴァン・ドンゲン	アガーテ・ヴェゲリフ・グラヴェスタインの肖像	1909年	油彩・キャンバス
52	キース・ヴァン・ドンゲン	ボドリ・ダッソン侯爵夫人	1919年	油彩・キャンバス
53	アンリ・マティス	『パリ1937』：アンドレ・シュアレス「シテ島から見たパリ」挿画	1937年	エッチング・紙
54	長谷川昇	横たわる裸婦	1952年	油彩・キャンバス

第三章：モンパルナスの終焉

両大戦間のパリで隆盛をきわめたモンパルナスの黄金時代も、1929年の世界大恐慌をきっかけにあっけなく幕を閉じます。アメリカ発の大不況はフランスにも襲いかかり、1930年には美術市場は暴落、同年「モンパルナスの王子」と呼ばれたジュル・パスキンの死に象徴されるように、一つの時代が終焉を迎えます。

パリを離れ、北米や中米、アジアなどへと長期の旅に出る芸術家たちもいました。退廃芸術の烙印を押されてドイツからパリに逃れて来た芸術家たちも、第二次世界

大戦の勃発によりその多くがアメリカなどに渡ります。そして1940年5月から6月にかけてのナチス・ドイツによるフランス侵攻とパリ占領をもって芸術家コミュニティは崩壊します。

戦後、美術の中心地は多くの亡命芸術家たちが集まることで新たな創造のエネルギーが生まれたニューヨークへと移り、モンパルナスが往時の輝きを取り戻すことはなかったのです。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
55	パール・クローグ	肘掛け椅子の女	1925年	油彩・キャンバス
56	エルミーヌ・ダヴィッド	パリ郊外の干し草積み	1922年	油彩・紙
57	ジュル・パスキン	黒いスカートのエルミーヌ	1911年	鉛筆、水彩・紙
58	ジュル・パスキン	肘掛け椅子のエルミーヌ	1914年	鉛筆、水彩・紙
59	ジュル・パスキン	三人の裸婦	1930年	油彩・キャンバス
60	ジュル・パスキン	恋人たち	1930年	油彩・板
61	ジュル・パスキン	放蕩息子	1922年	油彩・キャンバス
62	ジュル・パスキン	放蕩息子と娘たち	1926年	ドライポイント・紙
63	ジュル・パスキン	酒を飲む放蕩息子	1927年	ドライポイント、メゾチント・紙
64	ジュル・パスキン	再び放蕩息子	1927年	ソフトグランドエッチング・紙
65	マルク・シャガール	パリの空に花	1967年	油彩・キャンバス
66	藤田嗣治	「平和の聖母礼拝堂」ステンドグラス：聖チェチリア	再制作：2008年 オリジナル：1966年	ガラス、鉛

※No.24の作品は前期：10月29日(金)～12月10日(金)、No.25の作品は後期：12月11日(土)～1月23日(日)の展示期間でご覧いただけます。